

## R3～R5にかけての入試の変化【国語】

	R3までは60点満点、標準・裁量問題を採用	R4から100点満点、標準・裁量問題は無し	
	R3（標準問題）	R4	R5
1	<b>小問集合【21点】</b> ・漢字の読み書き ・敬語 ・漢字の画数、行書の部首 ・文章を要約した文の穴埋め（10字程度の書き抜き）	<b>小問集合【28点】</b> ・漢字の読み書き ・文の書きかえ（品詞の転生） ・文の書きかえ（1文を2文に、事実と考えの区別） ・手紙の言葉の種類の選択（頭語、時候の挨拶） ・二人の会話を表にまとめる	<b>小問集合【28点】</b> ・漢字の読み書き ・慣用句 ・文の書きかえ（AはBする→BはAされる） ・話し合い（説明する文の正誤問題・発言で空欄を埋める）
2	<b>小問集合【15点】</b> ・熟語の構成 ・誤字訂正 ・資料を読み取って条件に従い意見を述べる（字数指定無し） ・資料を読み取ってまとめる（20字程度）	<b>文学的文章【40点】</b> ・漢字の読み ・言葉の意味の選択 ・表現をもとにした空欄の穴埋め ・人物の心情の記述（60字程度） ・行動の根拠を選択 ・描写の説明「どのような」（80字程度）	<b>説明的文章【40点】</b> ・漢字の読み ・内容の正誤（ <b>全て選びなさい</b> ） ・内容に合わせた文章の穴埋め（31字書き抜き・20字程度書く） ・筆者が述べていることを <b>自身の経験を例にして</b> 説明する（字数指定無し） ・記述にあった具体例を選ぶ（ <b>全て選びなさい</b> ）
3	<b>文学的文章【15点】</b> ・内容をまとめた文の穴埋め ・描写をまとめた文の穴埋め ・人物の心情（ <b>70字程度</b> ） ・表現の工夫を書き抜きで穴埋め	<b>古典【14点】</b> ・会話文を探す ・書き下し文をもとに訓読文を選ぶ ・古文の内容を現代語でまとめた表の穴埋め（選択） ・条件作文（人物の比較、2文、 <b>自分の考え</b> 、語句）	<b>古典【14点】</b> ・正しい現代語訳を選ぶ ・古文の内容を現代語でまとめた表の穴埋め（書き抜き、書くどちらも） ・内容正誤
4	<b>古典【9点】</b> ・動作の主語を把握する ・内容を現代語でまとめた文の穴埋め（選択） ・現代語で書かれた文章内の出来事を発生順に並び替える	<b>委員会への要望書と話し合い【18点】</b> ・発言についての正誤 ・要望書をもとに穴埋め ・資料をもとに <b>自分で考えて</b> 要望に回答する（ <b>150字程度</b> ）	<b>レポート【18点】</b> ・資料の小見出しを選ぶ ・条件作文（解答欄に示した表現に続けて、グラフを根拠に、比較、字数指定無し） ・話し合いの内容を踏まえて、考察の下書きを書き直す（二つの文で、 <b>100字程度</b> ）

### まとめ

- ・裁量問題が廃止されたR4から出題形式が変わり、R5は基本的に変更なし【小問集合・文章読解・古典・資料の読み取り】。今後も継続される？
- ・記述の字数が増加している【R3は70字、R4は80字・150字、R5は100字】。全体的に記述する問題も増加している。
- ・文章や資料の読み取りだけでなく、それに対して「自分はどう考えるか」根拠を持って答える問題が出題される。特にR5大問2の「自身の経験を例にして」は「筆者の主張に当てはまる自分の経験を書き、そこから考えを述べる」という難問だった（主張を読み取り、経験を創作できるかとも取れる？）。
- ・R5からは選択問題で「全て選びなさい」が2問出題された。答えが明確に分かっていなければ正解できない。
- ・古文はある程度内容を推測できないと答えにたどり着けない。注釈をもとにした読み取りが必要。

### どんな授業が求められるか

- ・説明的文章や文学的文章ではただ読解するだけでなく、人物の行動や筆者の主張に対して自分の考えを書く活動を取り入れる。
- ・「何となく」ではなく、根拠を持って答えることを求める。
- ・ある程度まとめた字数で記述する機会を多く取り入れる。
- ・様々な資料（図表、レポート、公用文、話し合いの様子など）から、情報を正しく読み取り、自分の言葉で表現する機会を持つ。
- ・初見の古文を読んで、内容を把握する練習が必要。簡単なものを複数読んで、慣れることも重要か。